



多胎育児支援活動

「ツインズマーケット」

杏林大学保健学部看護学科看護養護教育学専攻

場家美沙紀 佐々木裕子 鈴木朋子 山内亮子 長谷川和子

杏林大学保健学部 太田ひろみ

背景

多胎育児中の保護者は、同時に複数の子どもを育てる中で多様な困難感を抱えている。睡眠不足や疲労、育児期の外出困難な状況により育児情報の入手も困難であることなどから、孤立感や育児不安感を有しており、多胎児の親が安心して育児期を過ごせるような環境や情報を提供していくことが望まれている。

活動の目的

本活動の目的は、ふたご・みつごを育てている家族が多胎育児に関する情報を得たり、多胎育児特有の不安や問題を解決する機会を得ること、ならびに多胎児の親同士の交流の場を提供することである。

方法

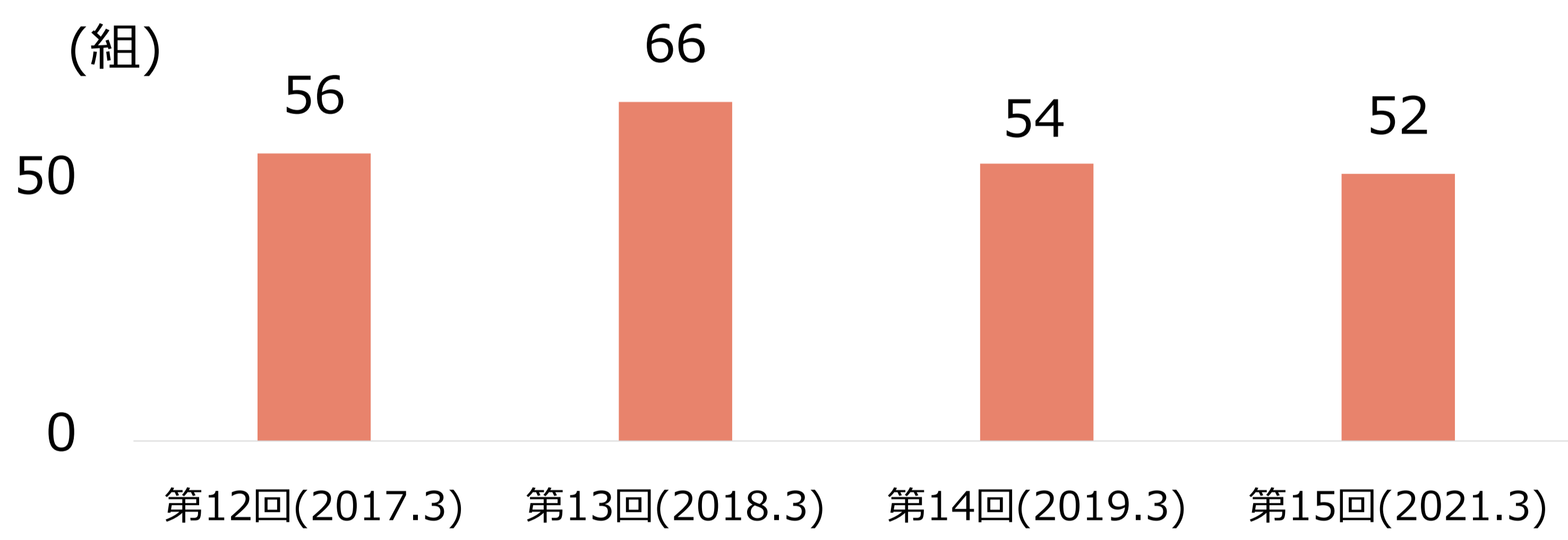
これまで年に1回(3月)に「ツインズマーケット」を開催し、講演会、交流会、バザー等を行っており、今年度の開催で15回目となった。本活動は、大学と地域が連携して行っている活動であるとともに、八王子市や三鷹市の育児支援団体、地域の多胎育児を行っている先輩保護者の協力を得て開催している。なお、今年度は、COVID-19の影響を鑑みweb開催に変更とし講演会を実施した。

開催日時：2021年3月6日(土) 13:00~14:50

開催方法：web開催



参加家族数の推移



※2020年はCOVID-19の影響で開催中止となった

プログラム

- 13:00 開会・オリエンテーション
- 13:10~ ミニレクチャー
『コロナ禍における多胎育児』
杏林大学(多摩多胎ネット) 太田ひろみ
- 13:35~ 講演会
『ふたご・みつごに生まれて
~ふたご・みつご当事者の思い~』
当事者3名
- 14:45 閉会



参加者の声

※参加者35名からアンケートに回答あり

◆表1.回答者について

属性	カテゴリー	n=35	
		人数	(%)
母親or父親	母親	33	(94.0)
	父親	2	(6.0)
ふたご・みつごの年齢	0~1歳	10	(28.6)
	2~3歳	10	(28.6)
	4~6歳	10	(28.6)
	7~12歳	4	(11.4)
	13歳以上	1	(2.8)
過去の参加状況	参加経験あり	15	(43.0)
	初参加	20	(57.0)

◆満足度

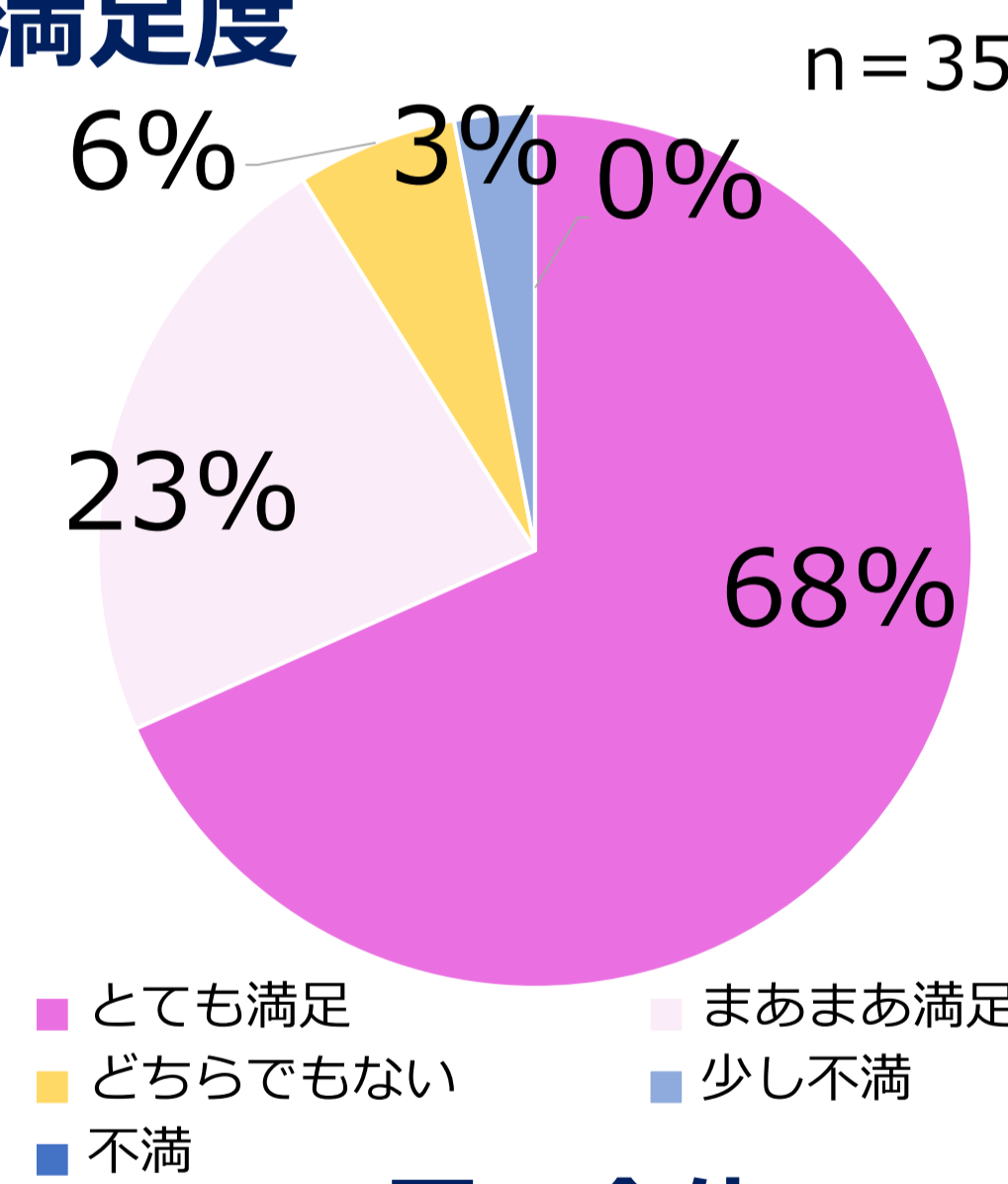


図1.全体

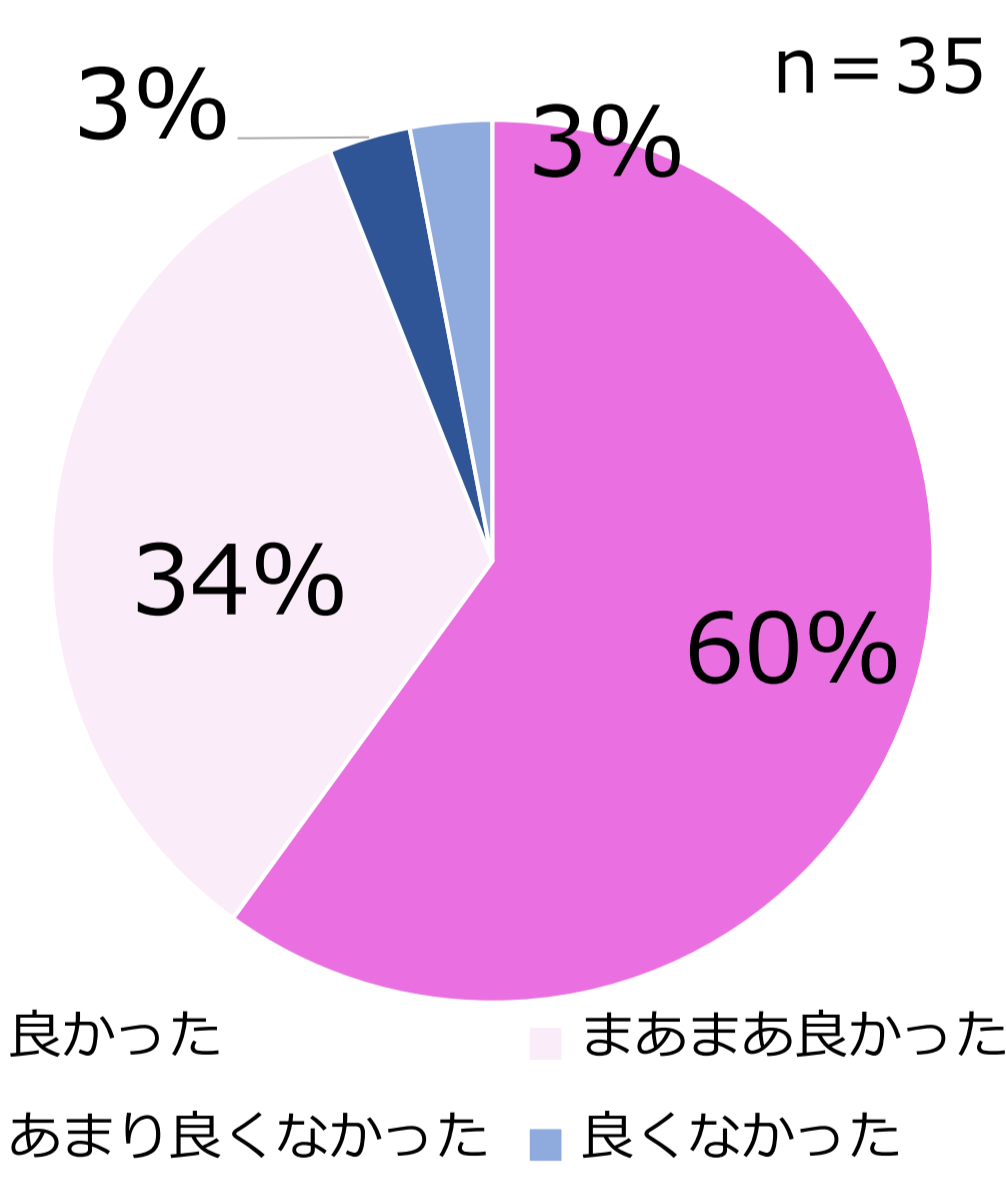


図2.ミニレクチャー

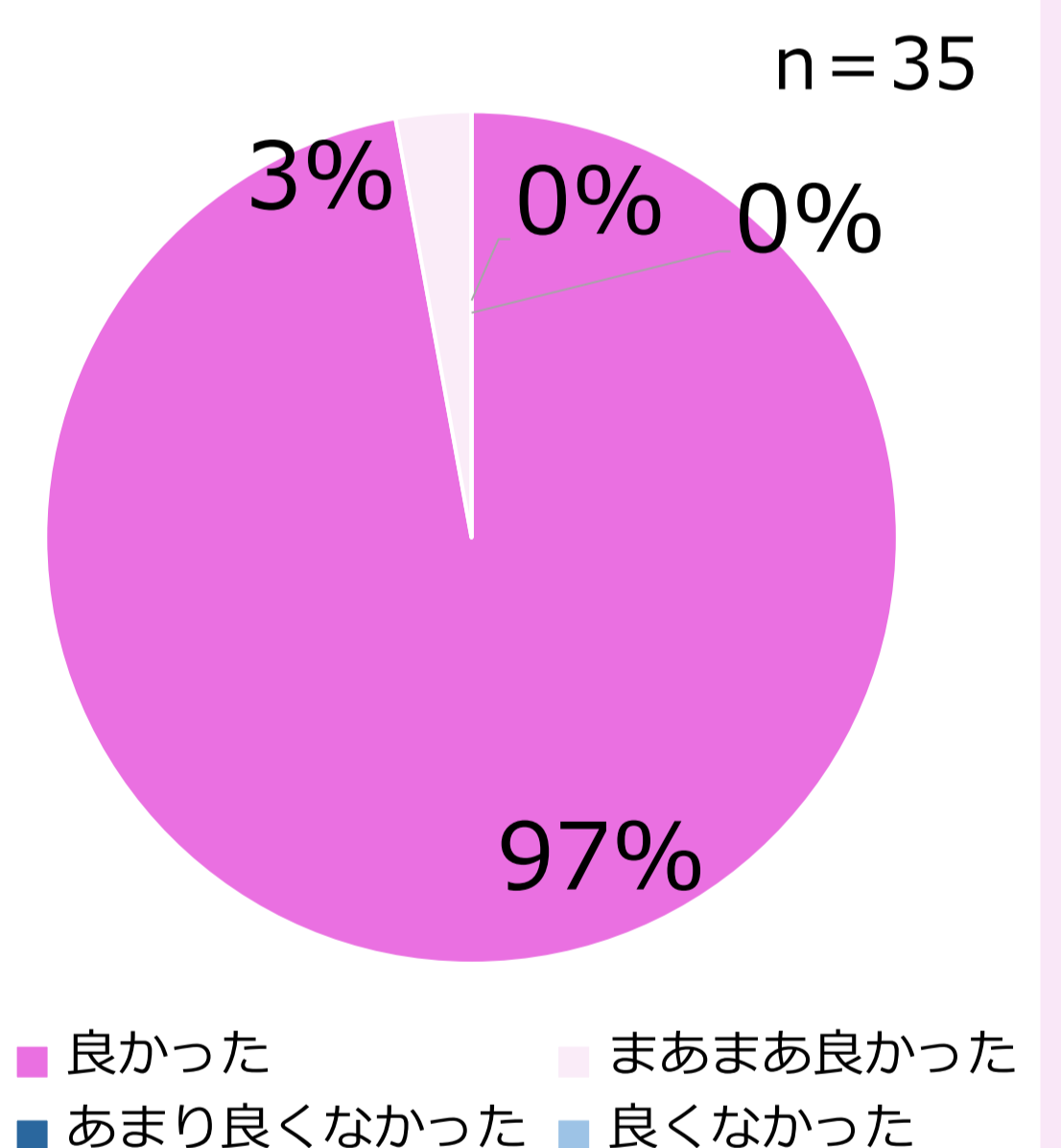


図3.講演会

◆ミニレクチャー 「コロナ禍における多胎育児」の感想

- コロナ禍における気持ちの吐き出し口があまりないと感じていたので、問いかけていただいて良かったと思う。
- 他の人たちがどんなことに悩んでいたのか分かって良かった。
- なかなか外出できない等、共感することがたくさんあり、皆一緒だなあと感じられた。
- 遊び場がなくなった点などについて、具体的な対策の共有があるとより参考になったと思う。
- 「外出しなくてはいけないプレッシャーがなくなった」と「大人と話したい」確かにそうだなと感じました。

◆講演会 「ふたご・みつごに生まれて~ふたご・みつご当事者の思い~」の感想

- 子どもの気持ちを考えるヒントになった。
- 母として平等と個性を促すことの狭間で揺れ動いていたのでお話しが聞けて良かった。
- 過度に平等を心掛けなくてもいいのかなあとホッとした。
- 多胎児である体験を普通に受け入れているのを見て、「あ、普通にその子その子として育てればいいんだな」と肩の荷がおりた。
- 親として大変励みになった。親御さんも一緒に話を聞けるとさらに面白いなと思った。
- 実際にふたごがどう思いながら成長していくのか、親としてどのように子どもと接していけばよいかのかわかり参考になった。
- 当事者の話が聞けてとても良かった、貴重な時間となった。

まとめ

今年度は、「ふたご・みつご当事者の話を聞いてみたい」という参加者からの要望をもとに講演会を開催した。当事者の思いを通して、多くの多胎児の親が直面する「平等と個性」という問題について、参加者自身が考え、自分たちの今後の育児に対するヒントを見出すきっかけとなった。また、オンラインでの開催は、自宅で家事や育児をしながら気軽に参加できること、遠方からの参加も可能となることから好評であった一方で、本活動の目的の1つである「親同士の交流の場を提供する」という点については難しさがあった。引き続き、オンライン・対面各々のメリットを活かしながら、多胎育児支援活動を継続できるよう検討していく必要がある。